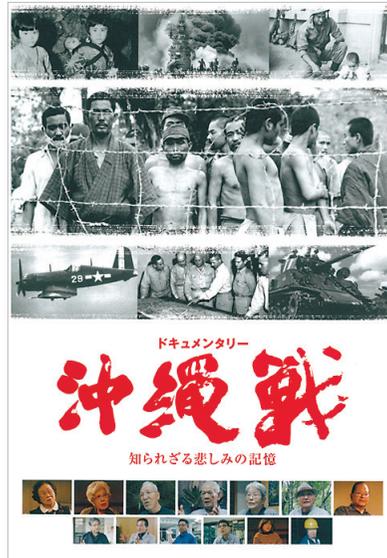


宗派製作映画「ドキュメンタリー 沖繩戦」を一般上映

75年前に凄惨な地上戦が繰り広げられた沖繩戦の証言などをまとめた映画「ドキュメンタリー 沖繩戦 知られざる悲しみの記憶」（製作＝本願寺派総合研究所、太田隆文監督／奈良県斑鳩町・誓興寺寺族）が、7月25日（東京・新宿K's cinema）から14都府県の映画館で上映される。

映画は宗門総合振興計画の一環で平和学習の視聴覚教材として製作し、昨年完成。DVDとブルーレイを全教区教務所に配布しているが、昨年12月に那覇市で行われた完成披露上映会の観客から、「軍事力は戦争の抑止力には



ならず、市井の人が犠牲になることが理屈抜きでわかる映画」「一人でも多くの人に見てもらいたい」など一般上映を求める声が多く寄せられたことから公開を決めた。

1945年3月の沖繩戦開始から6月に終結を迎えるまでを、米軍の記録映像と沖繩戦研究者の解説でたどりつつ、戦火の中を生き延びた門徒や集団自決の生存者、学童疎開中に撃沈された対馬丸の生存者など12人の証言から多角的に迫る。時間は1時間45分。上映予定など詳細はホームページ（「映画 沖繩戦」で検索）。